

2 級第 19 回 学科試験問題の難易度・傾向分析と今後の対策

【総評】（第 18 回との比較）

- * 能力開発基本調査や働き方実行計画など、雇用・労働に関する主要な資料からの出題があるので、最新の基本的な統計資料を確認しておくことが求められる。
- * キャリアの理論とカウンセリングの理論の問題は、基本的な知識を問う問題と細かい知識を問う問題が混在しているので、基本的な問題でしっかり得点することが重要である。
- * 雇用管理・労働法制などの分野の問題が前回よりも難しくなったので、対応が必要である。
- * 最後の 10 問程度は、基本的な問題であり、日本語や常識で正解を導くことのできる問題なので、取りこぼしをしないように注意する。
- * ストレスチェックなど、新しい制度の概要に関する知識もしっかりと理解しておくことが求められる。

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲の出題数に関し、前回（第 18 回）と同じであった。		①②参照
B	全般的に、基本的な知識の有無を問う出題が多い。		①②参照
C	過去に出題された内容や記述と重なる出題がみられる。	問 10、問 13、問 14、 問 17、問 21、問 37、 問 41、問 42、問 44、 問 48 など	①②③④参照
D	一読すると難しそうに見えるが、「日本語」や文章の「語感」で正解を導ける問題がある。	問 4、問 33、問 46、 問 47、問 49、問 50	④参照

【科目・範囲ごとの出題数（ ）は第 18 回からの増減）、難易度】

科目	範囲	出題数（ ）	難易度
1 ①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	2（±0）	難と中が各 1 問
1 ②	キャリアコンサルティングの役割の理解	1（±0）	中が 1 問
1 ③	キャリアコンサルティングを担う者の活動範囲と義務	2（±0）	易が 2 問
2 ①	キャリアに関連する理論の理解	4（±0）	中が 1 問、易が 3 問
2 ②	カウンセリングに関連する理論の理解	3（±0）	中が 1 問、易が 2 問
2 ③	自己理解に関する理解	3（±0）	中が 2 問、易が 1 問
2 ④	仕事・職業に関する理解	2（±0）	易が 2 問
2 ⑤	職業能力開発に関する理解	2（±0）	易が 2 問
2 ⑥	雇用管理（人事管理・労務管理）に関する理解	3（±0）	難が 1 問、中が 2 問
2 ⑦	労働市場に関する理解	2（±0）	易が 2 問

2 ⑧	労働法規、社会保障制度に関する理解	2 (±0)	中が2問
2 ⑨	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	2 (±0)	中と易が各1問
2 ⑩	メンタルヘルスに関する理解	3 (±0)	中が1問、易が2問
2 ⑪	ライフステージ、発達課題に関する理解	3 (±0)	難、中、易が各1問
2 ⑫	転機に関する理解	1 (±0)	中が1問
2 ⑬	相談者の類型的・個人的特性に関する理解	1 (±0)	易が1問
3 ①	基本的スキル	3 (±0)	中が2問、易が1問
3 ②	相談実施過程において必要なスキル	3 (±0)	易が3問
4 ①	キャリア形成、キャリアコンサルティングに関する教育、普及活動	2 (±0)	易が2問
4 ②	環境への働きかけの認識と実践	2 (±0)	易が2問
4 ③	ネットワークの認識と実践	1 (±0)	易が1問
4 ④	自己研鑽・スーパービジョン	2 (±0)	易が2問
4 ⑤	キャリア形成支援者としての姿勢	1 (±0)	易が1問

【今後の勉強への指針】

対 策	
①	合格ライン（70点）を確実にクリアするために、「毎回出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」「得点できる科目・範囲」を「キャリアの青本Ⅱ」で正確に理解し、確実に得点する。
②	「今回初めて出題された範囲」や「細かい知識や数字」にとらわれるよりも、「2級キャリアコンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な、「基本的かつ基礎的知識」を中心に習得する。
③	「過去問」とともに基本的問題を集めた「別冊キャリアの赤本【第二版】」や「赤本eラーニング」を活用し、必ず押さえておくべき「頻出分野」や「頻出項目」を把握して理解し、確実に得点できるようにしておく。
④	学科試験対策用テキストである「キャリアの青本Ⅱ」や「キャリアの青本Ⅱプラス（2017版）」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を得る。
⑤	試験問題に慣れて、「日本語の語感による正答（例：必要がない、必ず等）発見」や「組合せ問題」を解くテクニックや時間配分の技術、ケアレスミスをしらない方法などを体得する。 例：「最適な」「だけ」「かならず」「のみ」・・・等 強調する語彙や決めつける語彙は要注意！

以上